

# 日本音楽集団

第14回定期演奏会

9月27日(月)午後7時開演  
大阪厚生年金会館中ホール  
後援 関西学生邦楽連盟

# ENSEMBLE NIPPONIA

## ご あ い さ つ

本日はお忙しいところ私達の第14回定期演奏会において下さいまして、誠にありがとうございます。一昨年12月私達日本音楽集団と関西の学生諸君とによって蒔かれた種が、その後多くの諸先生や集団を支持して下さいの皆様のお力により、本日このような私たちとなって実を結んだことに集団一同深い感動をおぼえております。

いうまでもなく今日ほど伝統と現代、また現代邦楽について多くの関心が集まり議論されている時代はかつてなかったように思われます。また各地にはプロ・アマチュアを問はず、各種のサークルや集団と名のつく団体が次々に生れ育ってきています。これは大変素晴らしいことだと思います。しかし私達はこの現実をたゞ手ばなしで喜こんでばかりもいられません。このような現代邦楽運動の昂まりを真に定着させ、実りあるものにしていくためには明確な目的意識をもつより一層の努力と研鑽が必要だと思っております。そして私達の主体的な力の蓄積とねばりづよくはば広い実践活動とが、強く要求されていることをひしひしと感じます。

本日の演奏会がまた一つの新しい核となり多くの発展を生み出していくことが出来ればと希っております。最後に本公演に対して数々の御協力を頂いた関西学生邦楽連盟の皆様、厚く御礼申し上げます。

日本音楽集団  
長沢 勝俊

本日の日本音楽集団第14回定期演奏会が大阪で実現しました事、邦楽ファンの一人として、大変うれしく思いますし、今日の演奏会に対し、微力ながらもお手伝いさせて頂いていただきました関西学生邦楽連盟として、本日ご来場下さいました方々に厚く御礼申し上げます。

日本音楽集団は、一昨年にも大阪で演奏されたのですが、本日のような形で実現したのは、はじめてです。今さら、私がお本日の演奏会の意義を述べる必要もないかと存じます。

私の気持、それは、ご来聴の皆様が心ゆくまで今夜の演奏を、お楽しみいただくことでございます。

さあ、演奏会の開幕です。心ゆくまでお楽しみ下さい。

最後になりましたが、京都学生三曲連盟をはじめ、ご支援、ご協力下さいました方々に厚く御礼申し上げます。

関西学生邦楽連盟  
大野 道夫

## 日本音楽集団の魅力

わたしは、日本音楽集団の持つ魅力は、いったいどこにあるのかをのべたい。まづ感じるのは、作曲家も、指揮者も、演奏家も同人である事だ。これが一体となり有機的に結合し活動する時、信じられない結果が発表の度に生れるのを、私はしばしば東京のステージを共にする時に遭遇するのである。ということは、作曲家が書いたものを演奏家に展示し、演奏家がたゞ書かれた通り音にするだけの仕事で終わっていない事だ。作曲家も和楽器のすべてを自分の音楽の領域に引き入れたうえで創作する。また演奏家も書かれているのみの表現にとゞまらず、そこから何かを引きだそうと努力する相互間の能動的な姿勢がたえまなく行なわれていることがひしひしと感じられるのである。

古来和楽器は集団で演奏する為の目的でつくられたものは数少ない。これをアンサンブルするには技術的に大変むづかしい面も多分に出てくるが……この集団の演奏家はすべて誰を一人出してみてもソリストとしても我が国を代表する超一流の人達の集りであることが、この大きな障害を、もののみごとに可能にしているといえる。だから音と音とのぶつかり合うさまも、全くすさまじさがあり、そこに新鮮さがある。

終りに、この集団の活動がとくに関西の邦楽人に示唆するであろうと思われる点は、この人々の活動には、はっきりとした意識があること……つまりいゝ意味でのプロ意識をもって活動をしていることであるということは、芸術に対するもの見かた、考えかたにあいまいな妥協は、作曲家も演奏家も一斉しないというきびしさをもつてのぞんでいる事である。この意味においても今回の定期演奏会が関西学生ファンの要望により開かれるときくが、自分からプロと称する邦楽家も、是非日本音楽集団の公演をきいていたゞきたいと思うのである。

酒井 竹保

## 曲 目 と 出 演 者

### 1. 二つの舞曲／長沢勝俊

〔篠笛〕 望月太八 〔尺八〕 宮田耕八朗・坂田宏聡・横山勝也

〔琵琶〕 山田美喜子 〔三絃〕 杉浦弘和

〔箏〕 白根きぬ子・坂井とし子 〔二十絃箏〕 野坂恵子 〔十七絃〕 宮本幸子

〔打楽器〕 清水義矩・尾崎太一・高橋明邦

〔指揮〕 田村拓男

### 2. 孤 響——独奏尺八のための——／三木稔

〔尺八〕 横山勝也

### 3. 凸——三群の三曲と日本太鼓のための協奏曲——／三木稔

〔尺八高音〕 宮田耕八朗 〔十三絃箏〕 白根きぬ子 〔三絃太棹〕 坂井とし子

〔能管・篠笛〕 望月太八 〔二十絃箏〕 野坂恵子 〔琵琶〕 山田美喜子

〔尺八低音〕 横山勝也 〔十七絃箏〕 宮本幸子 〔三絃細棹〕 杉浦弘和

〔日本太鼓・指揮〕 田村拓男

## 休 憩

### 4. 日本民俗詩より「恋の歌」／長沢勝俊

1) くちづけはあまい夏梨の唄 2) きりきりしゃんと巻きつきたいの唄

3) 千里の夜道も遠くないの唄 4) 殿御にもろうたものの唄 5) 月は東にすばるは西にの唄

〔ソプラノ〕 増田陸実（客演） 〔バリトン〕 中村義春（客演）

〔篠笛〕 望月太八 〔打楽器〕 清水義矩・尾崎太一・高橋明邦

### 5. 組曲「人形風土記」／長沢勝俊

1) ニポポ 2) こけし 3) のろま人形 4) 流しびな 5) キジ馬 6) 木うそ

〔篠笛〕 望月太八 〔尺八〕 宮田耕八郎・坂田宏聡

〔琵琶〕 山田美喜子 〔三絃細棹〕 杉浦弘和 〔三絃太棹〕 坂井とし子

〔箏〕 野坂恵子・白根きぬ子 〔十七絃〕 宮本幸子

〔打楽器〕 高橋明邦・尾崎太一

〔指揮〕 田村拓男

## 長沢勝俊：二つの舞曲

作曲年代 1970年。  
初演 同年10月、日本音楽集国才12回定期演奏会。  
演奏時間 13分。  
楽器編成 篠笛、尺八3、三絃、琵琶、箏2、二十絃箏、十七絃箏、打楽器3、計13名。  
楽曲構成 全2章。

この曲は、たがいに対照的な二つの章、つまり二つの舞曲からなっている。才1の舞曲がゆるやかに旋律的であるのに対して、才2の舞曲は激しく律動的である。長沢さん自身のことばによれば、——才1章は深い悲しみと抵抗の曲であるが、中間部では明かるい明日への夢をうたっている。また才2章は、激しい群舞の饗宴である。——となる。

長沢さんの他のいくつかの作品がそうであるように、この曲もまた聴く人の心を深くとらえて、初めから終わりまではなさない。しかもそれに加えて、私はこの曲に一貫して流れる、強い緊張感を感じずにはいられない。この強く持続する緊張感、一体どこからくるものだろうか。長沢さんのことばの中にある「深い悲しみと抵抗」の心が才1章を支えるものなら、「激しい群舞の饗宴」の才2章の「激しさ」を裏づけるものは、何ものかに対する怒りなのだろうか。

そのことは一旦おいて、一見尋常でありながら決して尋常ではない長沢さんのリズムの底力を、私はこの曲で強くみせつけられた思いがする。それは割切れるけれども平凡ではなく、予想され得るけれども常に新鮮である。時には衝撃的に、時には、なだらかに、また時には重々しく、時には軽やかである。しかし、ひとたびそれが激しくおそいかかってくる時には、次から次へと息もつかせずに私たちを翻弄する。そしてついには息もとまるかと思うほどの手をゆるめない攻撃の中で、私たちは快よい放心状態におちいって、それらの衝撃に打ちたたかれているばかりである。

ふたたび長沢さんのことばをかりるなら、——民族芸能の中にある「舞い」や「踊り」を素材として、民衆の持つたくましいエネルギーを表現したいと希った。——とある。その民衆とは、過去の人々であると同時に、また当然現代の我々でなくてはならない。それならば、このどうしようもなく人間が人間自身を追いつめて行く現代の世界への、もちろんそれは同時に自分自身への、怒りや告発の気持をこめてこの曲をきくことも許されるのであろう。これ以前の長沢さんの他の作品にくらべて、いつになく張りつめた、激しい緊張感を持つこの曲の中で、長沢さんもやはり何か深い悲しみや怒りをこめ、何ものかを告発しているにちがいないと私は思っている。

## 三木稔：孤響——独奏尺八のための

コロムビア・レコード委嘱作品であるこの曲は、昨年3月から5月にかけて作曲され、同年9月29日、コロムビア主催の「今日の音楽・明日の音楽」(虎の門ホール)で初演された。

作曲者三木稔はつぎのように述べている——「……最近の尺八の曲が往々示し勝ちなまやかしの冥想性とは無縁の、激しい求心性に裏付けられた作品を書きたいと念願しねきました。……(中略)今述べてきた求心的な作品が本曲又は本曲的であるならば、本曲をこそ書きたいと思ったのです。だが、本当の本曲を吹くことのできる尺八奏者は誰もこの『孤響』を本曲とも、本曲のようだとも認定してくれないでしょう。……悲しいけれど、この音譜が私の尺八に托し得る極き付きのものと思って頂きたいのです。」(コロムビア・レコード『三木稔の音楽』解説パンフレットより)——

作曲者は最初から、長管尺八を吹く横山勝也氏を想定して書いたと言っているのだが、その横山氏について、「尺八本曲や海童道の持つ強烈な伝統の姿に、異質なまでのも等質化して行く」「すべてを自分の内なるもの世界に引き込むデーモンの持主」(『音楽芸術』1970年1月号)を指摘し、そのような横山氏のパターンを崩してでも「別のデーモンの生じうる余地が……存在し得るのか、どうか真剣に考え続け」(同上)るなかで書いたというこの曲は、ムラ息やユリなどの使用についてのきびしい禁欲によって、かえってその効果を高めているともいえよう。そして、全体を通じて感じられる、きわめて抑制された、そのピアノニッシモの表現のなかに「本曲への秘められた挑戦を聴きとることはできないであろうか。まだ「本曲」を知らない時期に書いたという『ソネット』(1962)や、「本曲」に接してから書かれたものではあるが、『四群のための形象』の第二曲目『居機』(1967)と比べてみると、一層興味深く聴かれよう。

鞍掛 昭二

池田 逸子

### 三木稔：凸——三群の三曲と日本太鼓のための協奏曲

「私たちが目先のめまぐるしさにとらわれたり、過去の芸術音楽に心を打たれて、その高みに到着しようともがいているとき、ふと自分の足下を見失うことがあります。そのようなとき、私は常に祖先の祭りの精神に一度立ち返ることにしています。私の血の自律作用というべきものでしょうか、復元性もしくは回春性というべきでしょうか。」（三木稔、コロムビア・レコード解説パンフレット）

やはりコロムビアの委嘱によって書かれたこの作品は、『孤響』について、昨年5月から7月にかけて作曲された。

「この曲の作曲にあたっては、…（中略）僕たちのやっているアンサンブルが果してこれでよいのかとできるかぎり自分にそして伝統に問い直すことから始め」、その「苦悩に満ちた結論」（同上）がこの作品であると作曲者が語っているように、ここでは、演奏者は全てそれぞれソリストであると同時にアンサンブルの担い手であるという、だが、両者が単に並列的に共存しているのではなくして、前者が止揚されたかたちで後者となるといった設定がなされている。そしてこのことは、三群の三曲合奏を舞台の左（第一群……尺八高音・十三絃箏・太棹三絃）・中（第二群……能管・二十絃箏琵琶）・右（第三群……能棹三絃・十七絃箏・尺八低音）に配置し、それらを統轄するようなかたちで指揮者を兼ねた祭太鼓奏者がいるという。演奏形態への配慮にまで及んでいるのである。

曲の構成は二つの部分に分かれており、第一部では芸術音楽的なものからの、第二部では民俗的なものからの伝承を考えにおいて書いたということである。第一部では、笛類——箏類——撥類の順に受け渡し奏されていき、さらに第一群——第三群——第二群と奏されていって、第二部に移っていく。第二部は琵琶のソロで始まる。ついで祭太鼓が発場し、それによって琵琶が主要テーマを奏す。続いて三絃——笛類——箏類と加わり高まったところに、祭太鼓の特徴あるリズムがはじき出されてくる。以後、祭太鼓のリズムと各楽器類あるいは各三曲群が多

様なからみ合いを見せつつ、最後のトゥッティへとまさに突進していくのである。この第二部のおよそ三分の二をすぎたあたりで、祭太鼓のリズムにのって、自由な楽器によるカデンツァが奏されてもよいことになっている。が、今回は、野坂恵子さんの二十絃箏によって、自作のカデンツァが奏されることになっているそうで、聴きどころのひとつであろう。

——「……『凸』とは、アポロンの世界を築くための突撃ラッパであり、訥々とした田舎弁での口説です。」

（三木稔同上）

## 長沢勝俊：日本民俗詩より「恋の歌」

### 1) くちづけはあまい夏梨の唄

(男) 十七見初めるにや  
あおの高嶺の石のかげ  
石に口なし 見初めたな  
見初めたな  
あまり愛ごさに口噉れや  
飴か甘草か 夏梨か  
夏梨か  
秋が山のこかの実か  
一夜づくりの 甘酒か

### 2) きりきりしゃんと巻きつきたいの唄

(女) 君さまは 高いところの姫小松  
わたしゃ谷間のつたかずら  
きりきりしゃんとね  
きりきりしゃんと巻きついて  
はなしがしてみたい

### 3) 千里の夜道も遠くないの唄

(男) 思てかよえば  
千里も一里よ  
逢わずもどれば また千里よ  
こなた思えば  
野も瀬も山も  
やぶも林も 知らで来た

### 4) 殿御にもろうたものの唄

(女) 様に貰うた  
根付のかがみ  
見れば恋増す 思い増す  
いとし殿御に 貰うたものはの  
親にはかくしたし  
見ても 見ても 見たしの  
見ても見たいは 殿御のみやげ  
十七が しのびの殿御に帯もろて  
晴れてはしられの しのび帯  
帯はもろうたが しのびの帯で

### 5) 月は東にすばるは西にの唄

(男・女) 月は東に  
すばるは西に  
いとし殿御は まんなかに

作曲年代 1968年。

委 嘱 NHK。

初 演 1968年、放送および日本音楽集団才8 回定期演奏会。

演奏時間 10分。

楽器編成 篠笛、打楽器3、女声、男声、計6名。

楽曲構成 全5曲。

この「恋の歌」にとりあげられた五つの詩(うた)は、上笙一郎(かみ・しよういちろう)著「日本の恋唄」(三一書房)の中から、長沢さんの手によって選ばされたものである。この五つの詩(うた)の背景について、原著を参照しながら簡単な説明をしてみよう。

〈くちづけは甘い夏梨の唄〉

岩手県、稗貫(ひえぬき)郡につたわる、たたら踏みの仕事唄。たたらは鞆と書き、たて穴の上部に仕掛けたシーソーのような大きな板を、多勢で両側から交互に踏んで風を送る一種のふいご。農村の副業として、かなり苦しい学唄であった事が想像される。

〈きりきりしゃんと巻きつきたいの唄〉

大分県につたわる田植唄の一つ。この唄は、かなり大胆な女性側からの愛情表現であるが、こういう唄は、よく男性が、女性からそのように想われたいという願望をこめてつくるものなのだそうである。

〈千里の夜道も遠くないの唄〉

この唄は、二つの唄を合わせて一つにしてある。前半は山口県の舟唄、後半は滋賀県の盆踊唄である。

〈殿御にもろうたものの唄〉

この唄は、三つの唄をまとめたものである。はじめの一節は大府の盆踊唄、まんなかと終りの二節は共に鳥根県につたわる田植唄である。

〈月は東にすばるは西にの唄〉

京都府の日本海側の村々につたわる盆踊唄。すばるは牡牛座の中の星団で、小さな六連の星の呼び名。御承知のように日本名である。

これらの詩(うた)は、すべて学唄の唄として、うたわれ、受けつがれてきたものである。炎天下の田植埜の下で、夜なべのいさきれの立ちこめた仕事場で、また収穫を祝う踊りの輪の中で、そして夕風に吹かれて櫓を押しながら、私たちの祖先がうたい、また、多くの人によってうたいつがれてきた。これらの、おおらかな、切ない、激しい、またこっけいな唄は、生活と密着した場で、人々の心をこめてうたわれてきたものだけに、恋愛至上主義の文学や詩にみられるような陶酔はないが、もっと力強く人の心をつかんでほしい。

私たちの祖先の恋心、それはまた現代の私たちの恋心でもある。この私たち日本人の恋心をうたった、長沢さんの朗々とおおらかな「恋の歌」は、時代を超えた日本民族の恋の歌であり、新しく生まれた現代の民謡である。この恋の歌は、私たちの心の本質に根ざし、素朴な精神につらぬかれている。

篠笛と打楽器という単純な判奏形態によってうたわれるこの新しい民謡は、どのような形式にも、またパターン化されたりリズムにもまどわされることなく、「うた」本来の息づきを持ってまたそれだけに日本のことばをみごとに生かすきって、私たちの心の奥の共通なものにむかって、率直に呼びかけてくる。

鞍掛 昭二

## 長沢勝俊：組曲「人形風土記」

作曲年代 1966年。  
初演 同年10月、日本音楽集団オ4 回定期演奏会。  
演奏時間 25分。  
楽器編成 篠笛、尺八2、三絃、琵琶、箏2、十七絃箏、打楽器2、計10名。  
楽曲構成 全6曲による組曲。

日本の楽器をつかって、郷土人形をテーマにした組曲を書く。数は五つ、個性的な、また、たがいに対照的なものを選ぶ。それらを変化を持たせて配置し、一曲ごとに楽器編成を変える。各曲の組み立ては、たとえばアイヌ人形なら、アイヌ民謡ふうに単純な旋律のくり返しを用い、人形芸居の人形ならば浄瑠璃ふうに仕立てる。

いくらか事実とはちがうかもしれないが、長沢さんはきっとこんなふうに、着想し、考えをすすめていたにちがいない。そして恐らく、いくつかの人形のふるさとへ旅をして、その背景を確認してきたにちがいない。このような着想や思考過程は、しかし平凡である。誰もか思いつきそうなアイデア、誰もかたどる考え方。たしかに長沢さんは、人の意表をつく人ではない。みんなと同じ常識を持ち、ふつうの暮らしをしている。だから長沢さんと同じようなことを、ほかの人が思いついたり考えたりする可能性はとても大きい。

曲ができあがった場合でも、演奏することは、表面的にはそうむずかしくない。また曲をきく人も、この次はこうなっていくだろうという期待を、あまり裏切られずにきくことがべきる。

ところが長沢さんの音楽は決して平凡ではない。いつも鮮烈で、すがすがしく、美しい。一見平凡そうであるが、非凡、簡単そうにみえて実は複雑。だから、先ほどたどって来た曲の組み立て——作曲家の仕事のいとぐちまでは私たちにもわかる。しかしそこからさきの、秘密工場の内部はわからない。長沢さんの作品の魅力の秘密はそこの中で生まれる。のびやかな旋律や、たしかな手ごたえを持つ、豊かなリズムがつくられ、多様な音色の組み合わせ、音量の変化の配置がたくみに行なわれる。それにしても、あの私たちみんなを一人のこらず引きずり込み、説得してしまう、ふしぎに美しいオスティナートはどうやって生まれるのか見当もつかない。

ニポポは古くからアイヌにつたわる木彫りの信仰人形。ニポポとは、木の小さな子という意味である。曲は、単純な旋律のくり返しだが、そのたびごとに変化を判って行なわれる。ひたむきな信仰、祈りの心につらぬかれた、

哀愁をおびたニポポである。

こけしはよく知られている通り、東北地方につたわる古い伝統的な郷土人形。篠笛と2本の尺八によって描きだされる世界は、こけしのふるさと、山ふところの深い木立ちなのだろうか。

のろまん形は佐渡でつくられる首人形である。今から約300年前に江戸からつたえられた人形のかしらを、かたどってつくられたのがのろまん形で、おどけた顔つきに特徴がある。太棹の三絃と鼓、たいこなどによる力強い描写は、武者の立ちまわりか、それとも涙ながらのかきどきか、情景がほうふつとする。

流しびなは鳥取地方に古くからつたわる民俗行事から生まれたものである。ひな祭りのときに、川にひなを流して厄をはらい。子供の健康と幸福を祈るという。子供のためにわざわざを一身に受けて沢山のひなが流されて行くひな流しの情景が、篠笛と箏群によって悲しく美しくえがかれている。

キジ馬は、大分県、万年山周辺の村々でつくられる白木のキジ車。なた一丁で仕上げたもので、単調な中に原始的な美しさが生き生きと宿っている。きこりが子供の遊び道具として与えたものであろうか。尺八2本と桶胴とが、素朴で原始的な世界の、みごとな空間表出を行なう。

木うそは、福岡県の大宰府天満で1月7日に行なわれる「うそ替え」の行事に使われる、木彫りのうそ。うそは、首から頬にかけて美しい紅色をした鳥である。木うその象徴的なスタイルはたいへん面白い。人々はこの木うそを手にとり替えて歩き、自分の一年分のうそを帳消しにするという。曲は祭りの中にぎわいの中に、そういう御都合主義的な「厄除け」行事の、ひょうきんな、そしてだまくらかしの雰囲気や、活き活きとしたしくえがきだしている。(各人形の説明は、斎藤良輔著「日本の郷土玩具」を参照した。)

## 鞍掛 昭二



尺八なんていうものは吹けば鳴るようにできているので、とりたてて教えることもなさそうなものですが、それでも私のところでも何人かの弟子が居まして、ある時その一人が「先生、僕のやってるのは何流ですか？」と妙な質問をしておどろかす。

聞いてみると、同じ会社にやはり尺八をやるのが居て、「お前はナニリュウか」とたずねられたが「ナニリュウ」ってなんのことだかわからなかったらしいのです。

尺八を吹く同好の人達と言葉が通じなくては不便だろうと思ひ、琴古流の楽譜も都山流の楽譜もおぼえてもらうようにしているのですが、弟子達はめんどろな事だとは思っても、世の中に「カタカナ」や「ひらがな」があるようなもので、その片方しか通用しない世界の事など実感としてわからなかったのでしょう。

武道でも流派を言わなくなっているのに、まさか音楽に流派があるなんて、知らない方があたりまえでしょう。

しかし、考えてみると、流派を作り、それに依存して来た日本人の本当の姿を知らなくては、これからの発展を考える時、大きな手落ちを残すことになるかもしれません。

流派を作り出した開拓者と、その新しい息吹きを支えたエネルギーを正しく評価し、糧とするべきでしょう。

自分の国の伝統音楽（楽器）が、学校の音楽教育の課程にほとんど入っていないという特殊な条件のもとで、開拓者たらんとする時、私達は実にきびしい試練にあわねばなりません。

しかし開拓者は私達だけではなく、さらに支えてくれる人達も無限だと信じています。今回東京の外では、はじめの定期演奏会をひらくにあたり、関邦連の方々の熱意に敬意を表すとともに今日ここにお集まりいただいたみなさま方に厚く感謝いたします。

どうぞ、くつろいで聞いて下さい。

日本音楽集団の演奏を始めて聞かせて頂きましたのは、正直申しまして何や訳のわからぬまゝ先輩に連れていかれた一昨年冬の“甦える日本音楽”というタイトルの大阪樟蔭女子大学館での演奏会でした。その時特に印象に残ったのが“日本楽器による子供のための組曲”でした。

そして昨年六月、この組曲は私共の秋の九回定期演奏会の演奏候補曲としてあがりましたが、私共学生にとって技術的に不安は多分にありました。だが幸いにも私共のメンバーにいわば学生らしい勇気を持った先輩がいたのと、メンバーの“子供のための組曲”に対する情熱により、全パートを私共のクラブ員で演奏することにしました。早速楽器を揃えるのにまさに東奔西走しました。打楽器に関しては日本音楽集団の清水先生に御相談し木魚、木鉦はお世話頂き編木（びんざさら）は自動鉦を部室に持ち込んで夜遅く迄かゝって製作し、又宮太鼓は近くの神社で貸してもらいました。琵琶は古道具屋から買い求めたり、地元の琵琶の先生に借りに行きました。このように準備段階からのメンバーの努力は大変なものでした。

さて楽器も一応揃え、八月末から三ヶ月間週一回の割でのアンサンブルの練習では、メンバーの各自が全体の中での自分のパートをより知ろうと意識し種々の工夫をしまし、時には口論といえる程の激しい意見のぶつつけあいもありました。“子供のための組曲”は私共に常に考える演奏を要求し、私共にとってこの上ない勉強となりましたし、一方アンサンブルの楽しさを充分味わせてくれました。とりわけ今迄経験の無かった琵琶と打楽器には最後迄苦勞しましたが、定期演奏会では何とか満足のいく演奏をすることが出来ました。

その後厚かましくも私共の演奏テープを長沢先生始め日本音楽集団の先生方に聞いて頂き、御批判御指導を賜りましたことは私共にとって身に余る光栄と存じ、ここに改めて厚く御礼申し上げる次第でございます。

渡辺 久孝

# 日 本 音 楽 集 団 団 員

篠笛・能管	望月 太八	箏	白根きぬ子
尺八	横山 勝也	箏・二十絃箏・三絃	野坂 恵子
尺八	宮田耕八朗	十七絃箏	宮本 幸子
尺八	坂田 宏聰	打楽器・指揮	田村 拓男
三絃	杉浦 弘和	打楽器・マネージャー	清水 義矩
琵琶	山田美喜子	打楽器	尾崎 太一
箏・三絃	坂井とし子	作曲・団代表	長沢 勝俊
		作曲	三木 稔

## 〔 団 友 〕

竜笛	芝 祐靖	教育研究主任	川崎 祥悦
箏・琵琶	砂崎 知子	作曲	元橋 康男
打楽器	佐藤 英彦	作曲	広瀬 量平
会計監査	芹沢 英雄	作曲	田中 利光
マネージャー	石田 早苗	作曲	佐藤 敏直
幼児教育	鞍掛 昭二	作曲	仲俣申喜男

## お 知 ら せ

### ◎ 集団の今後の公演予定は次の通りです。

1971. 9. 28 名古屋中日ホールで「日本音楽集団演奏会」  
10. 25 東京文化会館の東京交響楽団定期で三木稔作曲「序の曲」に出演  
11. 10 東京、都市センターホールで長沢勝俊作品による「才15回定期演奏会」  
11. 16 民音主催の演奏会に出演  
12. 20 日仏会館ホールで才1回「青少年のための伝統音楽シリーズ」  
1972. 6. 7 東京、都市センターホールで「才16回定期演奏会」

### ◎ 団員のリサイタルは次の通りです。

1971. 10. 20 日経ホールで野坂恵子「箏独奏の系譜」連続演奏会  
11. 15  
11. 5 東京文化会館小ホールで横山勝也尺八リサイタル  
12. 16 日経ホールで宮本幸子十七絃箏リサイタル

### ◎ 日本音楽集団は来年9・10月に、ベルリン音楽祭、フランドル音楽祭などから紹聘されており、それらを中心にヨーロッパ演奏旅行を行います。

### ◎ この夏軽井沢において、おこなわれた初めての日本音楽集団夏の合奏研究会は、皆様方の御協力により大きな成果をあげることが出来ました。来年も8月7日より13日までの適当な期間に、さらに充実したプランのうえに行う予定です。

### ◎ 集団関係のレコードで最近発売されたもの及び近く発売されるものを紹介します。

- コロムビア レコード「日本音楽集団による三木稔の音楽」(J X 21-24)  
キング レコード「日本音楽集団による日本の民謡」(S K K 673)〈編曲〉若松正司 小川寛興  
コロムビア レコード「日本美の響き—和楽器による日本旋律集」(Y S 10097)〈編曲〉長沢勝俊  
コロムビア レコード「日本美の響き—才2集」〈編曲〉若松正司 山野狩人  
コロムビア レコード「尺八プレイズパッサ」(N C B 7008)〈尺八〉宮田耕八朗

### ◎ 「日本音楽集団教育研究会」(仮称)としてスタートした研究集会はその後、東京・関西よりこの問題に関心のある方々の御出席を得て2回にわたる討論会をもちました。

今後、会の性格・方針をより明確にしながら実践活動にうつるべく現在準備中です。

### ● 企画 長沢勝俊 マネージメント 清水義矩

事務局 東京都渋谷区神宮前3-6-14 TEL: 03-402-0709 (〒150)

正派公刊箏曲楽譜発行元

都山流公刊尺八楽譜総発売元

# 前 川 出 版 社

542 大阪市南区鰻谷仲之町61（寺尾ビル）

電 話 大阪（251）6503番

振替貯金 大阪 62812番

# 真 山 銘 尺 八

永 広 真 山

豊中市服部豊町2-5-7

邦 樂 器 製 造 販 売

# ウ エ ム ラ 樂 器

大 阪 市 東 区 安 土 町 一 丁 目 20 番 地

電 話 (261) 9107 (代) 9108・9109 番  
フルイ コトヤ

振 替 口 座 大 阪 4 9 6 番

琴 三 絃 專 門 店

# な か む ら

奈 良 市 西 寺 林 町 十 八 電 話 ② 3 7 6 9

# 箏 三 絃

同 附 属 品 樂 譜 唄 本 舞 踊 用 品 各 種

大 阪 市 南 区 心 齋 橋 筋 二 丁 目 (式 橋 北 詰)

観 世 流 謡 曲 本 ・ 仕 舞 扇

# 大 阪 屋

TEL (211) 2767

株式会社

# 高嶋電線製造所

〒577 東大阪市岸田堂西1-28

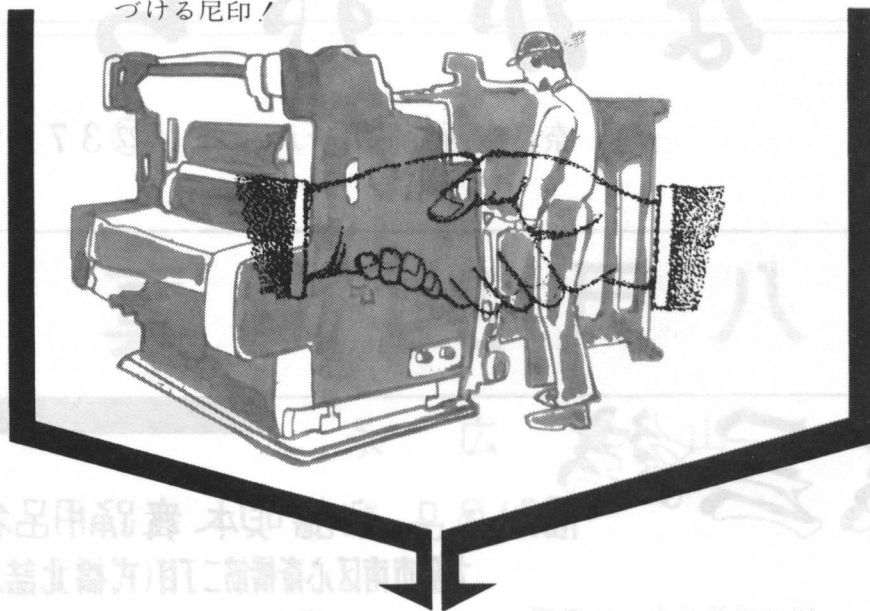
TEL 06-721-1632

## 活版印刷からオフセット印刷、

さらに進んで**電算写植印刷**の新分野へと技術の開発を  
追求しつづける尼印！

20数名の写真家・コピーライター・イラストレーターを擁する、  
**株式会社 NOW 社** を姉妹会社に、時代感覚を先取りし  
た高級印刷物と取組む尼印！

阪神間で社歴は最も旧くて、内容は最も新らしく、創  
造的な経営理念を掲げて、若々しく未来に**羽搏**たきつ  
づける尼印！



## 尼崎印刷株式会社

本社工場 尼崎市北大物町25番地（県尼高前）

TEL 06（481）0707～9

百貨店部 大阪梅田阪急百貨店5階 事務用品係  
印刷コーナー

# ●芸術祭大賞受賞に輝く

日本音楽集団による

# 三木稔の音楽



- 序の曲 ●天如 ●ソネット
- 凸 ●はばたきの歌 ●孤響
- 箏譚詩集 ●四群のための形象
- 古代舞曲によるパラフレーズ
- くるだんど

演奏・日本音楽集団 他

指揮・秋山和慶

▶JX-21~4 30cmステレオLP 4枚組  
(カートン・ケース入り) ¥7,200

楽器解説入り別冊解説書

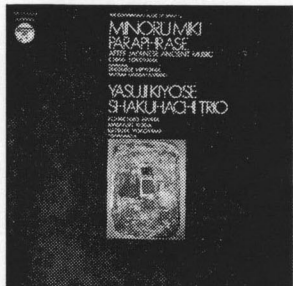
全曲完全楽譜付

(グラフィック・デザイン、田中一光)



再生時の音のひずみを取り除いた、マスターソニック・ノン・ディストーション・カッティング使用のレコードです。

## ●日本音楽集団による名演奏が評判です。是非ご試聴下さい！



三木 稔

古代舞曲によるパラフレーズ

清瀬保二

尺八三重奏曲

☆横山千秋指揮 日本音楽集団、横山勝也・古賀将之・宮田耕八朗

▶OS-10052 30cmステレオ ¥2,000

尺八 プレイズバッハ

①管弦楽組曲 第2番より ロンド／ボロネーズ／バディネリ

②ハーブシコード協奏曲 第5番よりラルゴ

③ブランデンブルグ協奏曲 第2番よりアンダンテ 他全6曲

☆尺八／宮田耕八朗

▶NCB-7004 30cmステレオ ¥2,000(マスター・ソニック・レコード)



日本美の響き ～和楽器による日本旋律集～

木曾節／赤とんぼ／通りゃんせ／花嫁人形／江戸の子守唄

鈴をおさめて／平城山／荒城の月／待ちぼうけ

叱られて／さくらさくら／お江戸日本橋 他

編曲・長沢勝俊

☆日本音楽集団 ▶YS-10097 30cmステレオ

¥1,900 (7月10日発売)



コロムビアレコード

